第5分科会

グローバルに活躍出来る人材の教育に大学はどのように貢献するか 一混沌とした世界で主体性を発揮できる人材の育成に向けて一

報告者

堀 真一郎 学校法人きのくに子どもの村学園 理事長・学園長

金 正泰 特定非営利活動法人 Glocal NET 代表、

コリア国際学園 前校長、大阪つくば開成高等学校 教員

福井 清 徳島大学 副学長(テクニオン連携担当)

コーディネーター

川田 隆雄 同志社女子大学 学芸学部 教授

〈第5分科会〉

グローバルに活躍出来る人材の教育に 大学はどのように貢献するか

一混沌とした世界で主体性を発揮できる人材の育成に向けて一

コーディネーター

同志社女子大学 学芸学部 教授 川田 隆雄

○本分科会のねらい

本日は「グローバルに活躍出来る人材の教育に大学はどのように貢献するか―混沌とした世界で主体性を発揮できる人材の育成に向けて―」という分科会です。

主体性という言葉は頻繁に使われますが、実は難解なことばだと思います。私はコンサルをしながら経営者の話を聞いていると、経営者は社員の主体性を求めますが、本当に主体性を持った人が欲しいというより、経営者にとって都合の良い主体性を求めます

学校でも先生達は生徒に主体的になれといいます。でもこれも主体性という言葉は都合良く使われる場合が多く、上記の企業経営者の例と同様に主体性といいつつも無条件の従順さも求めていて、矛盾していることが往々にしてあります。

そして、我々の社会も主体性を滅却して、生きることすら暗黙のうちに勧めています。このように、主体性は実は難しい現象ですが主体性の定義は以外と簡単です。「主体性とは自ら考えで動くこと」という定義に反対する人はあまりいないと思います。

近代の教育の本願は主体性の育成にあることは間違いありません。為政者がどう思うが、企業経営者がどう思うが、主体性の育成が教育の主たる目標であることは間違いありません。いろいろな議論があったとしても主体性は人の人生にとっても社会にとっても重要であることは間違いありません。私はプロデューサー(思いつきを実現した人)の研究をしていますが、私の研究データーを見ても主体的な人が新しい商品やサービス、概念を生みだし社会を変え進歩させいえいくことは間違いありません。

また、人それぞれの人生においても、自分の主体性を発揮した人こそ満足し幸せを得ることができるとも思います。そして、昨今の世界の地政学的な大きな変動を見ても、それぞれの国や人々が主体的にその国が行く方向を決める必要があります。主体的な行為がどうしても必要です。そして、我々が経験してきた日本の経済的衰退と、主体性の欠如との間に因果関係があるのではとも思うのです。そのような状況を踏まえて、この分科会では主体性をテーマにした分科会を企画しました。なぜなら、社会において主体性について考えさせ、主体性を育てる、中心的な機関は学校であり、小中高、そして大学だからです。

○報告の概要(抜粋)

キム・ジョンテ先生 (中学校・高校)

主体性を育てる為には、「常識を疑うこと」が大事。ルールを撤廃することで、子ども達は主体的に考えるようになってくる。そのため学校は極力ルールを少なくしたほうがよい。いつでも柔軟にルールを変更できる環境を作るべき。目的を持つことで、主体性が育ち、主体的に学び行動するようになる。やりたいことが思いっきりできる環境をつくるべきである。そうすることで子ども達はやらなければならないことに自分で気付き始める。夢が明確になれば、自ら考え、苦手な勉強もやらなければならないと思える。直接体験することが重要。多感な時にいろんな体験をする必要がある。国内では時間がかかるので、海外へ連れて行き様々な体験機会を増やすのが有効。

堀真一郎先生 (小学校、中学校・高校)

子ども達を主体的に育てる重要なポイントは、1. 知的探求、2. 本物の仕事、3. 自発性、4. 多方面の興味持たせる、ことが重要である。そして教育において最重要ポイントは、子ども達を小さな科学者として育て、創造的に考える態度と能力を培うことである。特に以下の5点は重要である。

- 1. 問題に気づく
- 2. 問題を観察する
- 3. 仮説を立てる
- 4. 結論を練り上げる
- 5. 行動して確かめる

福井清先生 (大学)

世界的な研究機関に留学して研鑽することで、主体性が育っていく。なるべく早い段階で海外に行くことが重要。海外に行くことで、世界にはこんなに多様で広がりがあることを示す必要がある。海外に行くのは、語学のために留学するのではなく、何がしたいか、目的をもって留学することが重要である。逆に海外に行くことで、目標もできることもある。教師にできるのは環境を整える事。大学では、海外に行くためのプログラムを整備する必要がる。

○報告に対する質疑ならびに全体討議の内容

- ・ルールがあると子供たちは考えないようになる、ルールがないと子ども達は主体的に考えざるをえなくなる。
- ・どんどんやってみよう、失敗してもいいよという環境を教師や学校が作る事が大事。
- ・海外に出ていくことは重要なことで、新しい価値観に触れるとそこにさまざまな疑問や動機が生まれる。
- ・本物に触れることが大事。シミュレーションで学習するのではく、本当に何かをする。主体性は、疑問、好きなこと、目標達成の過程に対しては自然に生成される。できれば、高校までには目標を見つけるための時間とチャンスを子ども達に提供する必要がある。大学では特に本物に触れ(top of tops に触れる)、本物を作り出したり、本物の活動をする(起業も含め)というのはとても理想的だ。どの過程でも「失敗が許される環境」が重要である。
- ・学生の主体性を育てるには、ピアレビューが有効、学習者同士が観察し合うことで成長していく。

大学コンソーシアム京都 第28回FDフォーラム第5分科会 (2023.2.23)

みずから考える子どもを育てる

一体験学習で学校を変える 一



(学)きのくに子どもの村学園 堀 真一郎

はじめに……

1.「活動的な仕事」としての幼児のおもちゃづくり (大阪市立大学幼児教室の実際)

ジョン・デューイ (1859-1952) 教育における2つの要件の統合

1. 子どもの活動性(興味、自発性)

2. 基本的社会生活への参加

「活動的な仕事」 (active occupations) きのくにのプロジェクト

「活動的な仕事」の特質

- 1. 知的探求……問題に気づき、問題を観察し、仮説を立て、結論を練り上げ、行動によって検証する
- 2. 本物の仕事……生きるうえでもっとも基礎的な営みを題材とする。
- 3. 自発性……子ども自身が好奇心に駆られて熱中する
- 4. 多方面の興味……より広い事象へと興味が発展していく

最重要のねらい=小さな科学者として創造的に考える態度と能力を培う

- 1. 問題に気づく
- 2. 問題を観察する
- 3. 仮説を立てる
- 4. 結論を練り上げる
- 5. 行動して確かめる

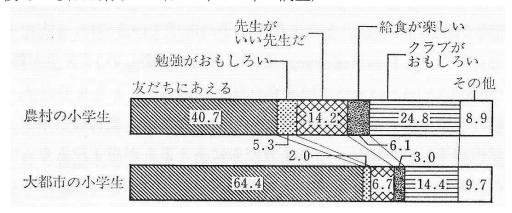
指導上の主な原則

- 1. 作り方を教えない(材料と見本は用意する)
- 2. 考えないと出来上がらない(簡単すぎない)
- 3. 身の回りの材料や不用品を多用する(特別の高価な教材はつかわない)
- 4. ことばかけに工夫する(肯定的評価と能動的な聞き方)など

2. きのくに子どもの村学園の理念と実際

(1)「学習がいちばん楽しい」といえる学校をつくりたい

学校でいちばん楽しいのは? (1984年の調査)

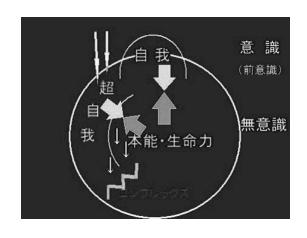


(2) 子どもが決める、子どもが選ぶ

— ニイルのサマーヒル・スクールに学ぶ ー

「困った子というのは不幸な子である」 「私の仕事は教育解除といってよい。」(ニイル)

- ◇「自分自身の生き方をする自由」
- ◇ 授業に出る出ないの自由
- ◇ 5歳の子の一票も校長の一票も同じ
- ◇「プライベート・レッスン」
- ◇ ファーストネームで呼び合う



(3) 考える楽しさ、工夫する喜びを — 小さな科学者のように考える — デューイの「活動的な仕事」の理論に学ぶ -

「1 オンスの経験は1トンの理論にまさる」 「このたびは子どもが太陽となり、 その周囲を教育のさまざまな仕組み が回転することになる。子どもが中 心となり、その周りに教育について の仕組みが組織されることになる。」 (デューイ)

創造的な思考の5局面(デューイ) 1. 問題の感知 Sense of a Problem 2. 問題の観察 Observation of the Problem 3. 仮説の暗示 Suggestion of the Hypotheses 4. 結論の推敲 Elaboration of a Conclusion 5. 行動による検証 Active Testing

★ ニイルとデューイの共通点

二人は、思想と実践の両面で接点はないが、古い価値観や世界観から子どもたちを解放し、「分自身のものの見方」を伸ばそうとする教育理念を共有している。

「我々は、すべての迷信、因習、偽善をかなぐり捨てたとき、その時はじめて教育を受けたといえるのだ。」(ニイル)

「教育の目的は、既成の知識の伝達ではなく、未来の価値の創造にある」(デューイ)

(4)子どもの村の教育目標、基本方針、学習形態など

(A)教育目標 — 自由な子ども

感情面でも、知的にも、人間関係でも自由な子どもへの成長の手助けをする。

- ① 感情面の自由……内面、とくに無意識の深層に抑圧や自己否定感がなく、自信と生きる喜びを満喫する子。
- ② 知性の自由……小さな科学者のように考える子ども。旺盛な好奇心を持ち、さまざまな問題の所在に敏感で、仮説を立て、検証しようとする子ども。
- ③ 人間関係の自由…自己意識がしっかりしていて、しかも「共に生きる喜び」を味わい追求する子ども。

(B) 基本原則 — 自己決定、個性化、体験学習

- ① 教師中心主義 → 子どもの自己決定と自由選択の重視
- ② 画一主義 → 個性と個人差の尊重、学習の多様化、
- ③ 書物中心主義 → 体験学習(「為すことによって学ぶ」)

(C) 基本原則の具体化 - プロジェクト、基礎学習、自由選択、ミーティング、個別学習

3つの基本原則を図のように重ねせてできる4つの図形をもとに学習形態を設定。

① プロジェクト

プロジェクトは3原則すべてが適用される最重要 の学習形態で、生きる上で不可欠のホンモノの営 みに挑戦して興味と知識と広げる。小学校では授業 の約半分を占める。最も大事なのは頭をつかうこと だ。

くプロジェクトを計画する上での留意点>

- 1. 発達の各側面を統合する (not 教科の総合)。
- 2. 知的探求である。
- 3. ホンモノの課題や仕事に挑戦する。
- 4. 衣食住や「いのち」からスタート。*
- 5. 道具としての知識と技術を活用する。
- 6. 子どもの知的生産物としての知識と技術

自己決定の原則 自由遊び 基礎 学習 自由選択 学習 個性化の原則 (個人相談等) (個別学習) (個別学習の原則)

図2 基本原則と学習形態

② 基礎学習

自己決定と個性化の原則にしたがい、プロジェクトの推進に必要(有用)な基礎技術を習得する。授業の約4分の1の時間を配当。小学校では「かず」と「ことば」として週7~8時限。中学校では「教科」と呼ばれて週12時限。

③ 自由選択

主としてグループでおこなう形態で、ミーティング、体育、音楽、図画工作など に関連した活動や学習をおこなう。

④ 個別学習、

特に中学校で教師による助言などを得ながら自主的に学習する時間である。

⑤ ミーティング

全校集会、クラスミーティング、寮のミーティング、各種委員会などで、様々な問題について話し合う。自由な学校とは話し合いの多い学校である。

<クラス編成>

教員はペアを組んでプロジェクトの概要について提案する。子どもは担任、活動 内容などを見て自分の所属するクラスをきまる。いずれも完全縦割り編成となる。 クラス名は「工務店」「ファーム」「おもしろ料理店」「劇団きのくに」「クラフト 館」(2018、和歌山の小学校)

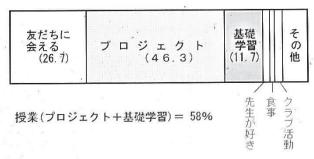
(D) 成果の検証

学校でいちばん楽しいのは…… 子どもの村の職員の条件…… 学力は大丈夫?

表1・中学校卒業生の進学先での成績(中間試験・期末試験での平均成績順位)

年 度	学年平均人数	卒業生平均順位
2009	238	2 8
2 0 1 0 2 0 1 1 2 0 1 2	2 1 4	1 7
2 0 1 1	287	3 3
2 0 1 2	194	1 7

学校でいちばん楽しいこと (2016年、きのくに子どもの村小学校 4~6年生)



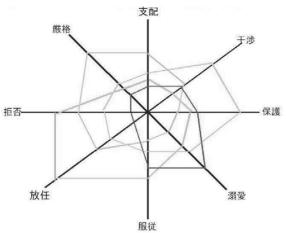
3. よく考える子どもの親子関係

- (1) 伸びる子と伸びにくい子
- (2) 創造的に考える子どもが育つ家庭親子関係テスト

ニイルのことば

「困った子というのは、 実は不幸な子である。。 彼は内心でたたかっている。

その結果として外界に向かってたたかう。」



(3)大人からのことばかけの工夫

キーワードは「受容」、体で抱っこ、ことばでも抱っこ

① 子どもの言動をよい面から認める

例 「まだ半分残ってるよ」→「もう半分は済んだね」

② 能動的なきき方……子どもの言動を評価しないで聞く。

例 「シイタケ食べるのイヤだ」

「好ききらいはいけません。がまんしてたべてみなさい。」

- →「そうか、シイタケはたべる気にはなれないか。」
- ③ 自分で気づく……「注意」から「気づいてもらう」へ

例 「だめ、あぶないじゃないの。気をつけなさい。」

- →「おっと、だいじょうぶかな?」
- ④ 私メッセージ……道徳を持ち出さないで正直な気持ち伝える

例 「機関銃かってくれなきゃいやだ。」

「人殺しをするような子は悪い子です。」

→ 「人を殺すおもちゃは、お母さんはどうしても好きになれないんだよ。」

6. おわりにあたって

参考文献

ニイル (堀訳): 新訳・ニイル選集・全5巻、黎明書房、1998

同(同): ニイルのおバカさん—A.S.ニイル自伝、1974(2019])

デューイ (宮原誠一訳): 学校と社会、岩波文庫

デューイ(松野安男訳): 民主主義と教育・上、下、岩波文庫

堀 真一郎:ニイルと自由な子どもたちーサマーヒルの理論と実際、1984、黎明書房

同:きのくに子どもの村の教育―体験学習が中心の自学校の二十年、2013、

黎明書房(2022、新新装版)

同:体験学習で学校を変える一きのくに子どもの村学園の歩み,2022,

黎明書房

同:教育の革新は体験学習から一堀 真一郎教育論文集、2022、黎明書房

2022年度第28回FDフォーラム

第5分科会 2023年2月23日(木・祝) 14:00~17:00

「グローバルに活躍できる人材の教育に大学はどのように貢献するか 一混沌とした世界で主体性を発揮できる人材の育成に向けて一」

生徒たちの主体性を育む環境づくり~学校の「常識」を疑え!

2023年1月25日 金 正泰(キン ジョンテ) 特定非営利活動法人GLOCAL NET 代表 コリア国際学園中等部高等部 前校長 大阪つくば開成高等学校 教員

金正泰(きんじょんて)と申します。

本フォーラム第5分科会のテーマに沿って、「グローバルに活躍できる」、「主体性を発揮できる」ことの意味と、コリア国際学園、大阪つくば開成高校、NPO法人GLOCAL NETでの教育経験について紹介させていただきます。

1. 目の前の問題に向き合うことで常識の歪みが見えてくる コリア国際学園での教育改革について

常識が違う人たちとともに暮らすことで、自分の「常識」を疑ってみる。

- ルールがなくなると自分で考えるようになる。
- ・決定権のある諮問会議。
- ・いつでも柔軟にルールを変更できる環境。

アイドルを目指す生徒のためのK-POP・エンターテインメントコースができた。

- ·学校でK-POP?
- やりたいことが思いっきりできる環境をつくる。
- 「やらなければならないこと」に気づく。
- 2. 通信制高校が目指す新たな学びの価値観 大阪つくば開成高校での教育経験「Catch Your Dream!」この学校はあなたが創る学校です。
 - 「普通」がない。誰もが普通。
 - ・学校を「どう使うか?」は自分次第。
 - ・異文化を受け入れる心はこういう環境から生まれる。

豊富な専門コース、セレクト科目、特別活動

- やりたいことを選んでやる。
- ・判断と選択の実体験
- ・高校生も主体的に学びたい。
- 3. 子どもたちを学校から解放する NPO法人GLOCAL NETの取り組み グローバルに活躍できる人材とは?
 - ・世界(宇宙)で起きていることに対する主体的な態度
 - ・世界で起きていることを知る。見る。交わる。
 - 世界に友だちをつくる。

家庭と学校(塾)とそれから...

- ・家庭と学校(職場)ではない場をつくる。
- ・新しい出会いが感動できる体験をする。
- ・同世代ではない人たちとも心を開けるように。
- 4. まとめ

スライド1

2023年2月23日

大学コンソーシアム京都 2022年度 第28回FDフォーラム

第5分科会:グローバルに活躍出来る人材の教育に大学はどのように貢献するか

「世界に学ぶアントレプレナーシップ: 主体性を発揮する イノベーション人材の育成に向けて」

徳島大学副学長(テクニオン連携担当) 福井 清



スライド2

